

朝刊本紙 2026/10/08(木)

国
経
済

叡啓大（広島市中区）は6日、人工知能（AI）の急速な進歩を踏まえたひろぎんホールディング

A I 時代 地方の強み生かそう

叡啓大、都内でトークイベント



広島の可能性を議論する左から木下執行役員、津幡副社長、早田教授

ス（HD、中区）と常石商事（福山市）の役員も参加し、多様な現場がある広島を説いた。日本共創プラットフォーム（東京）の富山和彦会長が基調講演した。生成AIが商品企画・開発や管理業務の多くを代替できる未来を見据え「ホワイトカラーが圧倒的に多い東京は大変。本気で会社の構造を変えないといけない」と指摘した。

続くパネルディスカッションで、叡啓大ソーシャルデザインセンター長の早田吉伸教授は「まだ出てきていない、手間がかかる付加価値の高い事業は、現場のある地方で

生まれやすくなる」と展望。ひろぎんHDの木下麻子執行役員、常石商事の津幡靖久副社長は、製造業が集まり人口減少な

どの課題も抱える広島でビジネスを展開する意義を強調した。早田教授も携わったムック本を刊行した角川アスキー総合研究所（東京）の協力を得て開催。約90人が聞いた。

（秋吉正哉）